



# 楠の葉新聞

## 記事内容

- 夏を制する
- 海馬
- 熟議

### 夏を制する者は・・・

「夏を制する者は受験を制す」 以前に某塾会社のキャッチフレーズに使われていた言葉です。現在は、受験生の合い言葉として良く耳にします。実はこの言葉は全く違うところで生まれた言葉だったことをご存じですか？1970年代前半、神奈川県代表のチームが3度の全国制覇をした時に生まれた言葉だそうです。「神奈川県を制する者は全国を制す」私は野球マンガ「ドラゴン」でも同じ言葉を見た記憶があります。言葉の出所は諸説あるようです。200校近い神奈川県予選の参加校からたった1校が甲子園大会に出場できる。激戦区を勝ち抜いたチームは甲子園でも優勝するレベルにあるということだそうです。大きな壁を乗り越えた者にはより大きな成果が得られる。そのような解釈でしょうか。困難にチャレンジするだけではなく、そこを乗り越える。その乗り越える努力がより大きな成果につながるのでしょうか。今年の夏休み何を制するか。何か一つでも大きな目標を立てて夏休みに望むのも良いかも知れません。私は・・・

ちなみに第100回全国高校野球大会（夏の甲子園）キャッチフレーズは「本気の夏、100回目。」だそうです。宮崎市の女子高校生が考えた作品です。

### 海馬ニツツノオトシゴ

以前読んだ本の受け売りから。脳に「海馬ニツツノオトシゴ」とよばれる部分がある。字のとおりカタチがツツノオトシゴに似ているところから名前がついているようだ。この海馬には記憶を短期的に保存する働きがありその記憶を長期保存するか否か振り分けることをしているそうだ。長期保存されれば知識として定着していく。短期だとすぐに忘れる。では長期保存させるには・・・喜怒哀楽の感情が伴うことが安易な方法だと書いてあった。勉強しながら喜怒哀楽？感動する映画を見ながら勉強すると記憶が定着するとは思えないが。感情が伴った場面や記憶は確かに忘れられない。



勉強方法のヒントのような気もする・・・

### 熟議してますか？

学校運営協議会ニコミスクの活動の中に「熟議」という言葉があります。初めて聞いた時、「熱く語り合うこと」と考えていました。間違えていたことに気がつきました。「熟慮」と「討議」を「熟議」といいます。「熟慮とはよくよく考える」こと。一人では熟慮は難しい。複数の人がいるからこそ、いろいろな考えが集まる。「討議はテーマについて話し合う」こと。合わせると「あるテーマについてよく考え、いろいろな考えを取り入れながら話し合うこと」となります。

果たして日頃「熟議」をしていますか？「熟議」ができる環境やスキルはかなりレベルの高いことではなんでしょうか。会議でもなかなか意見が出なかったり、一方的な意見で結論に至ったり、職場でも同じような状況が見られるのではないのでしょうか。ましてやご家庭では「熟議」の状況って皆無では・・・（私は経験がありません）

昔、「ノーといえる日本」という本がベストセラーになりました。本の内容はさておき、日本人は自分の意見を主張しないことを指摘したものでした。昨今はずいぶん自己主張できるようになってきたのかも知れませんが、熟慮して討議することはまだまだではないでしょうか。

テーマは何でもいいと思います。

「熟議」の経験が重要でそのスキルを身に付けることが大切。

こんなテーマはいかがですか。

「明日の夕飯メニューは何がいい？」

「テスト結果について」「来週の休日どこに行くか」「熟議」、これからしばらくこの言葉広めようと思います。

